

大人用



伝道地便り

2021年 第1期 ユーロアジア支部

第1話「USB メモリ論争」	ロシア
第2話「語学の賜物」	ロシア
第3話「人生を変えた交通事故」	ロシア
第4話「スポーツは人生を変える」	キルギス
第5話「1冊の本と学校」	キルギス
第6話「祈り方の教え」	ウクライナ

ADVENTIST
MISSION

セブンスデー・アドベンチスト教団 伝道局 安息日学校部

伝道地便りの用い方のヒント

伝道地便りに収められているのは、現地からの一人ひとりの生きた経験です。安息日学校でこれを用いるときには、生き生きとご紹介していただきたいのです。そのためのヒントを、いくつか挙げていきます。

- 1) 前もって何度か目を通し、自信を持って読む。
- 2) 棒読みは避け、証されている大事な部分を明確にしておく。
- 3) 伝える時間はできるだけ短く。長くても5～7分。
- 4) 誰が、いつ、どこで、何を、なぜ、どうしたかが分かるようにする。
- 5) できたらカードに文字や絵を書くなどの視聴覚的工夫を。
- 6) 時には、スキット(寸劇)風にしてくださっても良いですね。

伝道地便りは、私たちが自分の証をするときの練習になります。主の愛の証のために、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして」紹介しましょう。

1. USB メモリ論争

ロシア



アリョーナ・ピロゾク 20 歳

ロシアの寒い冬のある日、バス旅行中に電気が消え、暖房が止まったバスの車内で、アリョーナはザオクスキー・アドベンチスト大学に戻りたいと思っていました。彼女の賛美グループの、他の学生たちも同じ気持ちでした。いつバスの故障が直るのかも分からず、皆疲れ果てていました。10人を乗せたバスは、ロシアのザオクスキーを出発してベラルーシのミンスクへ向かう12時間の道のりの5時間ほど走った地点にいました。

彼らは、大学にいるアリョーナの父親に電話をして助けを求めることにしました。車やバスの修理に詳しいアリョーナの父親は、すぐに車で助けに向かうので、近くのカソリンスタンドで待つように言いました。

アリョーナの父親の到着まで4時間、そしてバスを修理するまで更に2時間待ちました。待っている間、彼らはガソリンスタンドで働く背の高い体格の良い男性と話をしました。彼はとても親切で、待っている間無料でハーブティーを提供してくれました。

ようやくバスの修理が終わり出発できることになりました。学生たちはバスに乗り込み、アリョーナの父親にお礼を言うと、ミンスクへの旅を再開しました。

その約1時間後、アリョーナはガソリンスタンドに戻りたいという強い思いを感じました。ガソリンスタンドで働いているあの親切な男性に、エレン・ホワイトの大争闘が入ったUSBメモリを渡したかったのです。このUSBメモリは、彼女や友人たちが証のためのツールとしてあげるために持っていたものでした。

「ガソリンスタンドに戻ろう」とアリョーナが呼びかけました。

皆は不満の嵐です。

「あの男の人にこのUSBメモリをあげないと」とアリョーナは皆を説得するように言いました。

「あの人にUSBメモリをあげたい気持ちは山々だけど、僕たちは戻らないよ」とニキータが言いました。

どうするべきか、彼らは10分間話し合いました。皆USBメモリをあげたいと思っていましたが、わざわざ戻るのは時間の無駄に思えたからです。特にニキータは、ベラルーシに向けて旅を続けるよう主張していました。ところが突然、ニキータの主張が変わったのです。「やっぱり戻らないといけない」と彼は言いました。

「どうして？」皆が声を揃えて言いました。するとニキータは恥ずかしそうに、うなだれながら言いました。「僕、ガソリンスタンドに携帯を忘れてきてしまったんだ」

バスがUターンすると、学生たちは皆喜びました。アリョーナは特に喜びました。皆、その男性にUSBメモリをあげたかったのです。しかしニキータはその男性が大柄で体格も良かったことを思い出し、「もしかすると、彼はUSBメモリを受

け取らないかもしれない。見るからにクリスチャンではないし、僕たちが待っている間もタバコを吸っていたよね」と言いました。

到着するまでの1時間、彼らはその男性が USB メモリを受け取るかについて論じました。ガソリンスタンドに近づくと、アリョーナは皆と「愛するイエス様、あの男性の心を開いて下さり、USB メモリを受け取って中の内容も読んでくださるよう助けてください」と祈りました。

バスがガソリンスタンドに停車すると、建物の中から男性が出て来ました。彼の手にはニキータの携帯がありました。戻ってくるのを待っていたのです。

アリョーナはその男性のところへ行きました。男性の隣に並ぶ自分がとても小さく思えて緊張しましたが、USB メモリを出し、「これをどうか受け取ってください。わたしたちはクリスチャンでイエス様を信じています。これをあなたに差し上げたいのです。これが何かあなたの助けになるかもしれません」と言って渡しました。

学生たちは皆男性に注目しました。果たして USB メモリを受け取ってくれるのでしょうか。

男性の顔は笑顔になり、明るい表情で言いました。「ありがとう！是非読んでみるよ」

アリョーナは、この男性が約束通り内容を読んでくれたかは分かりませんが、心配はしていません。彼が大争闘を読むに至ったかは聖霊の働きであって、学生たちの役割はその USB メモリをあげることだったのです。

アリョーナは「イエス様のことを伝えるとき、恐れることは何もないのです。私たちは聖霊の働きを過小評価するときがありますが、聖霊の力は凄いのです。それに思っているより人は優しく、皆イエス様について知りたいと思っているのです」と言います。

アリョーナが小学校、高校と通ったザオクスキー・クリスチャンスクールは、現在ザオクスキー・アドベンチスト大学の教室を借りて授業をしています。今期の13回安息日献金は、この学校の生徒たち専用の建物を大学構内に建設するための建築

資金として用いられます。

〈お話のヒント〉

- ロシアのザオクスキー (Zaoksky) を地図で探してみてください。モスクワの南に位置しています。ベラルーシのミンスクまでの道のりを見てみましょう。
- アリョーナについての Youtube を見ることができます。: bit.ly/Alyona-ESD.
- Facebook で写真をダウンロードできます。: bit.ly/fb-mq
- ユーロアジア支部の情報をダウンロードできます。: bit.ly/2021-ESD.

宣教メモ

- ロシアの教団の構成は、7つの教区を持つ西ロシア教団、3つのミッションを持つ東ロシア教団、2つの教区と1つのミッションから成るコーカサス教団、ユニオンチャーチ極東教団から成り立っています。
- ロシアには 640 の教会と、719 の集会所があり、42,466 人の教会員がいます。1億5千484万2千人という人口なので、3,646 人に1人が教会員という計算になります。

2. 語学の賜物

ロシア



アナトリー・ゴロヴィジン 28 歳

カザフスタンで生まれ、長いあいだ患っていた病から癒されたアナトリーは、牧師として働くことを神様に約束していました。ところが貧しい村の貧困家庭に育った彼にはお金も無く、神学科で学ぶという希望は叶えられるものではありませんでした。しぶしぶ、アナトリーは働き口を得るためにロシアに移り住みました。

「神様、私に何を望んでおられるのですか？」と彼は毎日祈りました。祈っていると、神様が「翻訳家になるための学びをなさい」と答えられたように彼は感じました。アナトリーは笑いました。彼は優等生でもありませんでしたし、彼の家族は皆技術者だったからです。家族のうちで外国語を知る者は誰もいませんでした。それでも外国語を学ぶという事が頭から離れず、彼はカザフスタンのウシュトベにいる母親の元に戻りました。

「母さん、翻訳家になるための勉強がしたいんだ」と打ち明けました。母親は驚いて、「アナトリー、あなたはロシア語とカザフ語しかわからないでしょう。そのような仕事はあなたには向いていないと思うわ」と言いました。

それでもアナトリーの考えは変わらず、英語が学べる大学のある一番近くのタルディコルガンという町に母親と行き、大学の入学試験を受けましたが、アナトリーは合格できず、2人は悲しみながら家に帰りました。

しかしアナトリーは考えを変えることができませんでした。ある日、木の下で聖書を読んでいると、外国語を喋る能力は、聖霊からの恵みであるということに初めて気が付きました。コリント人への第一の手紙 12 章 8 節、10 節に、

「ある人には“霊”によって知恵の言葉、ある人には同じ“霊”によって知識の言葉が与えられ、……ある人には種々の異言を語る力、ある人には異言を解釈する力が与えられています」と書かれていたのです。

アナトリーはこうべを垂れて祈りました。「神様、どうかこの賜物を私に与えて下さい」

1 か月後、彼が線路沿いを歩いていると、英会話の教科書が落ちていました。家に帰りその教科書を開き、彼は簡単なフレーズを英語とロシア語で読み始めました。2 ページを読み終えると本を閉じ、今何を読んだかを思い返しました。すると今読んだ全ての英語を覚えていたのです。驚いた彼は、その英単語を頭の中で何度も反復しました。

「信じられない。何か夢を見ているのかもしれない」と思いました。

彼は再び教科書を開き、さらに 10 ページ読み進めました。本を閉じて母親に渡すと、「母さん、この本の何処からでもいいからロシア語を読んでみて」と言いました。

母親がいくつかのフレーズを読むと、アナトリーは全て英語に翻訳することができたのです。驚きと共に、彼は祈り求めていた外国語の才能が与えられたのだと悟りました。

アナトリーは故郷の町で英語のコースを学び、2 か月後には中級レベルに達していました。その

後、彼はスイカの栽培をして得たお金で初めてのノートパソコンを買いました。そしてまたスイカの栽培をしてお金を得て、それをインターネット環境と携帯電話の購入に使いました。これらのお陰で彼はオンラインで英語の学びをすることができたのでした。

次の年、以前入学試験で不合格になった大学に満点で合格し、入学することができました。彼の英語の能力はとても高く、大学が彼を英語の全国大会に出場させてくれました。土曜日の講義をいつも欠席するアナトリーに注意をしていた大学の学長も、彼が全国大会で第2位という成績を修めて米ドル 200 ドルを受賞すると考えを変え、「教会に行きなさい！　と言うより、私も君と一緒に教会に行こう」と言い、実際に教会に行ったのでした。

アナトリーは言語学科を英語とトルコ語、2つの成績優秀者として卒業しました。

彼はロシア語、カザフ語、英語、そしてトルコ語に留まらず、キルギスにあるアドベンチストの学校で学んだ4か月の間にスペイン語も学びました。すると教会のリーダーたちはスペイン語をより上達させるために彼をアルゼンチンに送り、そこで彼はポルトガル語も学びました。彼は国に戻ると、3年間カザフスタンのアドベンチスト教会の外国語教師、また通訳者として働きました。そして彼の夢は現実となりました。神様に牧師として働くことと誓った9年後、ザオクスキー・アドベンチスト大学に行く事ができたのです。

アナトリーは、聖霊による言語やその他の賜物は、使徒言行録の初代教会のためだけのものではないと固く信じています。

「神様は過去においても現在においても同じで、神様の賜物を私たちが祈り求めるとき、それらを私たちに与えて下さるのです。何故私たちが聖霊の賜物を持っていないかと言うと、それは単に私たちが祈り求めているだけなのです」と彼は言います。

アナトリーの友人が、自分は聖霊の賜物を受け取ったことがないと言いました。アナトリーは彼に、1度でも祈り求めたことはあるかと尋ねまし

た。彼は驚いたようにアナトリーを見て、「いや、確かに祈り求めたことはなかった」と答えました。

アナトリーは卒業後、カザフスタンに戻り牧師として神様に仕える計画をしています。アナトリーは「考えてみてください。貧しいカザフスタンの少年がいくつもの言語を喋っているのです。神様は素晴らしいお方です！」と言います。

今期の 13 回安息日献金の一部は、ザオクスキー・クリスチャンスクール専用の建物をザオクスキー・アドベンチスト大学のキャンパス内に建てる為の建築資金として用いられます。現在は大学の教室を借りていますが、皆様の献金により、子どもたちが自分たちの教室で学べるようになります。皆様の惜しみない献金を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- ・ロシアのザオクスキー（Zaoksky）を地図で探してみましょう。モスクワの南にあります。また、カザフスタン、そしてアルゼンチンが何処にあるかも地図で確認してみましょう。
- ・Facebook で写真をダウンロードできます。：bit.ly/fb-mq
- ・ユーロアジア支部の情報は、以下よりダウンロードできます。：bit.ly/2021-ESD。

3. 人生を変えた交通事故

ロシア



オルガ ノーシン 34歳

事故によって、オルガとローマンの黒海旅行は台無しになりました。結婚3年目の夫婦は海辺の町々を車で走行していました。運転していたローマンは、曲がる場所を見落としてしまったため、速度を落として道の真ん中で U ターンをしました。その時、反対から物凄いスピードで白いベンツがやってきて、彼らの乗るフォルクスワーゲンと衝突しました。フォルクスワーゲンは長い間回転をした後、ようやく停止しました。窓は粉々に砕け、ドアも開かないほど変形してしまいました。オルガとローマンは壊れた窓から何とか抜け出し、傷1つなく助かりました。しかし車は完全に大破です。ローマンとオルガがベンツの方を見ると、車は同じく酷い状態でしたが、運転手は無事でした。

警察が到着し、この事故がローマンの過失であると見なされると、ローマンは顔を腕にうずめ、「あのベンツの支払いで、僕たちの人生のうちの数年が失われることになるんだ」と言いました。

その瞬間、いかにこの事故の代償が高くつくかをオルガは悟りました。ローマンが入っていた最

低限の保険では、高額な車両代金まで補償できませんでした。オルガは大破した車を離れ、道沿いにあるぶどう畑の中に歩いていくと、倒れるようにひざまずき祈りました。「どうか助けて下さい」彼女は目を開けて立ち上がりました。大破した車は依然として道路に停車しています。

ベンツを運転していた男性の名はムサと言い、ローマンに厳しい口調で話してきました。「君の運転免許証を僕に渡してくれ。その運転免許証は君が車の代金を支払った後に返そう」

ローマンは自分の運転免許証を渡しました。警察が必要な書類の処理を終えると、誰かがムサを迎えにきました。ローマンとオルガは旅を続けられるわけもなく、レッカー車が到着するまでの間、話をするためにぶどう畑に行きました。ここ数週間、お互いの関係がぎくしゃくしていた2人の感情が爆発しました。オルガは、離婚の危機が迫っていることを悟りました。2人はお互いに、そして神様に赦しを求めました。

その夜、ローマンとオルガは海岸に泊まりました。次の日の朝、ムサから電話があり、彼の家に泊まるよう、招待してくれました。彼はもう1台車を所有していて、ローマンとオルガの保険関係やその他の法的な書類を用意するため、彼が運転をしてくれました。ムサはローマンとオルガが肉を食べないということを知り、とても驚きました。そしてアルコールも飲まないと聞き、より一層驚きました。「おかしい人たちだ。一体何者なんだい？」とムサは言いました。「私たちはセブンスデー・アドベンチストです」とオルガは答えました。

「本当に？ 君たちは僕が人生で出会った2番目のアドベンチストだ」とムサは言いました。

話をしていくうちに、ムサはクリスチャンではなく、2人の妻がいることが分かりました。彼はまた、罪悪感に苛まれていました。この事故のほんの数日前、2番目の妻に中絶を強要したという

ことを2人に打ち明けたのでした。

「この事故は神様からの罰だ」と彼は言いました。

彼はベンツが大好きで、特別仕様のものを1週間前に購入したばかりでした。

ローマンとオルガはロシアのザオクスキーにいる友人たちに電話をして、車の支払いに充てるお金を貸してくれないかと頼みました。3日のうちに十分なお金を借りることができ、その後も友人たちは電話をかけてきて何か自分たちに出来ることはないかと申し出てくれました。

ムサはその電話のやり取りを聞き、涙しました。

「僕はお金持ちだし、知り合いもたくさんいる。今までたくさんの人たちに大金を稼ぐ手助けをしてきた。けれども事故の後、僕を心配して電話をかけてくれる友人は1人もいない。君たちは貧しくて、何も所有はしていないかもしれないが、友人たちは君たちのことを想ってくれている」

週の終わりには車の支払いが終わり、ムサはローマンに運転免許証を返しました。そして彼は、ローマンとオルガが事故の際に行こうとしていた街に数日行く用事があるので一緒に来ないかと彼らを誘ってくれました。

ローマンとオルガは2日間を、今まで見たことも無いような豪邸で過ごすことができました。そしてその後、電車でザオクスキーへ帰りました。

借金の支払いがあり、次の年は彼らにとって大変な年となりましたが、オルガは事故のことを神様に感謝しました。あの事故のお陰で結婚関係が守られたのです。神様に感謝をしていると、彼女は給料が上がリ、ローマンは新しい給料の良い仕事に就くことが出来ました。彼らはたった1年で借りたお金を返すことができたのです。彼女は言います。「私たちは何も望んではいませんでした、神様は私たちの全ての必要を満たして下さいます」

オルガは1993年にザオクスキー・クリスチャンスクールの初年度に入学した生徒の1人でした。彼女はそこで中学校、高校も過ごし、ザオクスキー・アドベンチスト大学を卒業しました。

今期の13回安息日献金の一部は、ザオクスキー・クリスチャンスクール専用の建物をザオクスキー・アドベンチスト大学のキャンパス内に建てる為の建築資金として用いられます。現在は大学の教室を借りていますが、皆様の献金により、子どもたちが自分たちの教室で学べるようになります。皆様の惜しみない献金を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- ・オルガについて Youtube にて視聴できます。:
bit.ly/Olga-ESD.
- ・Facebook で写真をダウンロードできます。:
bit.ly/fb-mq
- ・ユーロアジア支部の情報は、以下よりダウンロードできます。:
bit.ly/2021-ESD.

豆知識

- ・ロシアの小説家、レフ・トルストイと、フョードル・ドフトエフスキーは多くの文芸評論家たちから、史上最高の小説家と唱えられています。

4. スポーツは人生を変える

キルギス



ヘスース・マキシミリアーノ 24歳

スポーツで痛めてしまった肩の、難しい手術の間に、ヘスースは瀕死の状態に陥るという経験をしました。手術後、彼は神様のために特別に何かをしたいという思いを強く感じました。さてその思いを彼はどうしたでしょう。

ヘスースは、アルゼンチンのリバープレート大学を卒業後、1か月間、文書伝道者として働くことにより、神様へのその思いを実行に移したのです。そして本を売って得た全ての収益を、アドベンチスト教会に献げることにしました。

大学最後の年、ヘスースは体操のクラスに参加することが難しくなっていると感じていました。彼の肩の痛みが酷くなっていたのです。教授たちは、体育専攻だったヘスースに、必須科目を終えることができなければ卒業は出来ないと忠告しました。

医者には、「このまま体操をやりつづければ、君の肩は悪くなる一方だ」と言われ、大学の専攻を変えるようにと勧められました。

ヘスースは卒業間近に専攻を変えたくありませんでしたし、何より専攻を変えて大学に残るよう

なお金ありませんでした。

ヘスースが将来について悩んでいる時、友人のマルコスが卒業後はどうするのかと訊いてきました。ヘスースは、1か月文書伝道者として働き、全ての収益をアドベンチスト教会に献げようと思っていることを伝えました。マルコスは、その考えを気に入ると同時に、もう1つアイデアをくれました。

「キルギスに行ってみたらどうかな」と彼は言いました。マルコスはキルギスのアドベンチストの学校で、1年間ボランティアとして働いた経験があったのです。

ヘスースは世界を半周するくらい遠い場所まで行くななんて考えたこともありませんでしたが、その提案を真剣に考えることにしました。彼は祈り、卒業後はキルギスに行くことを神様に約束しました。

いよいよ大学最後の体操最終試験となりました。ヘスースは、今の自分には不可能とも思われる体操ができるように、神様に助けを求め祈りました。すると驚いたことに、全ての体操を最後までやりきることができたのです。

その後、医者がヘスースの肩を検査して、とても驚きました。彼の肩の古い傷が完全に治っていたのです。それは正に奇跡でした。

ヘスースは卒業して1か月後、キルギスに飛びました。トクモクのアドベンチストスクールに到着したヘスースは、体育の授業と、近隣の子どもたちのために開いている午後のサッカークラスのコーチを任されることになりました。そのサッカークラスは、2017年度の13回献金によって建てられた学校の体育館で行われていました。

このお話はこれでは終わりません。ヘスースが子どもたちと交わりを重ねるうちに、彼は子どもたちの行動の大きな変化に気が付きます。言い争いや取っ組み合いが多かった男子生徒たちに、ヘ

スースが「僕たちは皆、兄弟姉妹なんだよ。喧嘩をする必要はないんだ」と言うと、彼らは喧嘩を辞めました。そしてお酒を飲んでいる男子生徒たちを見て、ヘスースは飲むのを辞めるよう勧めました。「お酒は体に悪いんだ」とヘスースが言うと、彼らはお酒を辞めました。

ヘスースはキルギスでボランティアができる1年が自分の人生に与えられたことを、嬉しく思っています。

彼は言います。「僕の生徒たちの中に大きな変化が起こっています。それに、他との試合にも負けなしです！」

3年前の13回献金の一部は、このキルギスのトクモクにあるセブンスデー・アドベンチストスクールの体育館の建築費用として用いられました。キルギスやその他ユーロアジア地区のアドベンチスト教育のための、皆様のお支えを感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- Jesus はヘスースと発音します。
- Facebook で写真をダウンロードできます。: bit.ly/fb-mq
- ESD ミッションポストとファストファクトは、以下よりダウンロードできます。: bit.ly/2021-ESD.

宣教メモ

- キルギスミッションは、ユーロアジア支部・南ユニオン教団の一部です。11の教会と、12の集会所があり、664人の教会員で成り立っています。645万7千人の人口ですので、9,724人に1人がアドベンチストということになります。
- キルギスの人口のうち、約90パーセントはイスラム教徒なため、キルギスミッションでは、アドベンチストとイスラム教徒の関係を深める伝道を実施しています。

豆知識

- キルギスの首都はビシュケクで、以前はピシュペク（ロシア革命時にはフルンゼと改名されていた）と呼ばれ、国の北端付近に位置し、元々はここに要塞が建てられ、キャラバンの国への出入りをコントロールしていました。現在の人口は百万人を超えます。
- キルギスの国旗は赤の背景に黄色の太陽です。太陽から出る40の光線は、9世紀の英雄マナスの元、侵略するウイグル人と戦うため団結した40の部族を表しています。太陽の中央にある斜めの縞模様は、中央アジアの遊牧民の伝統的な住居であるユルトの頂部を表しています。

5. 1冊の本と学校

キルギス



タチアナ・ソコロフスカヤ 72歳

アンデレ・ソコロフスキー 37歳

キルギスのトクモクにあるセブンスデー・アドベンチストの学校で仕事を終えたタチアナは、帰宅途中にあった古本屋に立ち寄りしました。最近学校の校長から仕事の依頼を受け、彼女はロシア語と文学の教師として働き始めたばかりでした。

タチアナが何冊かの本を買おうとしてレジに行くと、そこにいた従業員が1冊の本を手に取り「これ、良かったらどうぞ。無料で差し上げます」と言いました。

タダで貰えるのですから、断る理由はありません。彼女はその本を受け取り、その他の本の支払いを終えると、全ての本をバッグにしまいました。そして家に帰り、貰った本を興味津々で手に取りました。本の題名は『大争闘』。エレン・G・ホワイトという著者の名前も彼女は聞いたこともありませんでした。パラパラとページをめくっていると、最後のページに連絡先が書かれており、パベル・ノスコフという男性の名前がありました。そして住所を見ると、驚いたことに、彼女の住むアパートと同じ住所だったのです。それから数日間、

彼女は、このパベルという男性が近隣に住んでいるということを考えていました。そして彼女の働く学校に、パベルと同じ苗字の教師がいることに気が付いたのです。タチアナはその本を学校に持っていき、同僚のアリーナに見せ、「もしかして、あなたはこのパベルさんの奥様ですか？」と聞きました。アリーナは、「そうです。パベルは私の主人です」と答えました。

タチアナはその一家がセブンスデー・アドベンチストで、毎週安息日に教会に出席しているということを知りました。アリーナは、タチアナと彼女の息子のアンデレを自宅に招き、彼女の夫のパベルとも話をするようになりました。そのうち、パベルはタチアナに、アドベンチストにとってエレン・G・ホワイトは非常に大切な著者であり、預言者と考えられているという話をしました。好奇心をそそられたタチアナは『大争闘』を興味深く読みました。

タチアナとアンデレは、パベルとアリーナの家で毎週開かれている小グループの聖書研究に参加するようになりました。パベルの母親が病気になり、小グループをする他の場所が必要になった時、タチアナは自分の家を聖書研究のために開放しました。

その数週間後、タチアナとアンデレの2人に霊的な葛藤が起こったのです。2人でアドベンチストになる決心をするか、そうでなければアドベンチストとのかかわりを一切やめなければならないという強い思いを感じたのです。2人はパベルに、一体どうしたら良いのか分からないと相談すると、パベルはこう言いました。

「この危機からあなたたちを救えるのは神様しかいません」

タチアナはパベルと一緒に祈り、その週の安息日にアンデレと2人で初めて教会に行くことにしました。教会で、彼らは今までにない体験をし

した。教会員はとても温かく迎えてくれ、新しいお客様が来てくれたことを心から喜んでくれました。そして長い間会えなかった友達のように扱ってくれたのです。タチアナとアンデレは、まるで実家に戻った時のような気持ちになりました。

タチアナとアンデレは、2019年の4月6日、一緒にバプテスマを受けました。タチアナは、自分と息子を神様に導いてくれたのはアドベンチスの学校のお陰だと言います。「この学校に感謝しています。ここに働きに来ていなければ、帰宅途中に、あの本屋さんに立ち寄ることもなく、自分のアパートに住む隣人がアドベンチストである事を知る由もなく、アドベンチスト教会について知ることもなかったでしょう。神様が私たちの道を備えてくださったのです」

3年前の13回安息日献金の一部は、このキルギスのトクモクにあるセブンスデー・アドベンチストの学校の体育館の建築費用として用いられました。キルギスやその他ユーロアジア地域のアドベンチスト教育の為に、皆様のお支えを感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- Facebook で写真をダウンロードできます。:
bit.ly/fb-mq
- ユーロアジア支部の情報は、以下よりダウンロードできます : bit.ly/2021-ESD.

豆知識

- ティアン・シャン（天の山脈）は、一連の山脈からなる中央アジアの地域です。キルギスの国土の 80 パーセントがティアン・シャン内にあり、2つの最も高い山頂はキルギスの国境にあります。最高は、24,406 フィート（7,439 メートル）で、中国との国境に位置するポバーダ山（ビクトリーピーク：勝利峰）です。第二の高さを誇るのは、カザフスタンとの国境にある、23,000 フィート（7,010 メートル）のハン・テングリ（ロード・オブ・ザ・スピリッツ：霊の王）です。
- キルギスの人口の大半はキルギス人（73.3%）です。歴史的に遊牧民であるキルギス人は、ユルトという可動式の丸いテントに住み、羊、馬、ヤクの群れと共に移動していました。キルギスの遊牧民のほとんどが現在も半遊牧民の暮らし方をしていて、夏の間は動物の群れを山に移動しています。
- 鷹狩りは中央アジアの伝統的な娯楽で、主にワシで狩りをします。イヌワシのキルギス名はベルクトで、調教師はベルクチュと呼ばれます。
- キルギスではクミスという馬乳を発酵させたアルコール飲料を飲む伝統があり、キルギス文化にとって馬がいかに大切かを示しています。
- 歴史的には外国によって占領されていた時期もあったキルギスですが、古くからの様々な氏族、部族が住んでおり、1991年のソビエト連邦崩壊後は独立国家として設立されました。

6. 祈り方の教え

ウクライナ



ナタリヤ・バーリンスカヤ 43歳

教師のナタリヤは自分の受け持つ中学3年生のクラスで、週に一度、教室で輪になって特別な祈りの組をしていました。

ある朝、ビクトリアに「あなたからお祈りを始めてもらえるかしら？」と言いました。

15歳のビクトリアは、真ん丸の目を大きく開いて怯えた顔で先生を見ました。そして「どうやって祈るんですか？」と彼女は言いました。

先生は答えました。「こうやって始めるの。愛する神様……」

「そう言うのですか？」とビクトリア。

「そうよ。言ってごらんなさい」と先生は言いました。

「次は何と言うのですか？」と彼女は聞きます。

「お話で今読んだように、神様に私達を祝福してくださるよう祈るのよ」と先生は言いました。

太陽は毎日昇り、私たちが良くても悪くても、みんなを照らしてくれるというお話をビクトリアはちょうど読んでいたのです。また、イエス様の愛も同じように毎日みんなを照らしてくれているので、クリスチャンである私たちも、いつも皆を

照らす光となりましょうというお話でした。

「愛する神様」ビクトリアは祈り始めました。

「どうか私たちが良い生徒でいられるように助けてください。そして私たちが光となれるように助けてください」

ウクライナのブチャにあるセブンスデー・アドベンチストの学校の中学3年生の中で、皆の前で祈るのが怖いというのはビクトリアだけではありませんでした。クラスの7人中4人はアドベンチストの家庭から来ていましたが、そうではないビクトリアと他の2人は祈ることに慣れていなかったのです。先生は、彼らにも自分たちで祈ることによって、祈りの力を体験してほしいと思ったのです。

初めて祈るという体験をしたビクトリアは、もう祈ることが怖くなくなりました。けれども彼女の親友ルスランは祈ることを断りました。

「祈るのが怖いです。皆の前で祈るなんてできません」とルスランは言いました。

先生はルスランのために特別に祈りました。

あるとき、ビクトリアが耳の感染症を患ってしまい、1か月間学校に来られなくなるという事態になりました。生徒たちも先生も、皆ビクトリアのことを心配していましたが、親友のルスランは特に心配していました。先生は、ビクトリアのために毎日特別な祈りの組をすることにしました。皆が彼女のために祈りましたが、ルスランが祈ることはありませんでした。

ある朝、先生は、ビクトリアが次の日に耳の手術をしなければならなくなった、ということを発表しました。皆を輪になって立たせた先生は、「ビクトリアのために誰がお祈りしますか？」と聞きました。するとルスランが、「僕が祈りたい！」と突然言い出したのです。

皆驚きました。「何て言うんだっけ？」彼は聞きました。

生徒たちは頭を垂れて目を閉じました。ルスラ

ンが祈り始めました。

「愛するイエス様。ビクトリアの手術を祝福してください。どうか彼女が聴覚を失うことが無いように助けて下さい。彼女を癒してください。そして僕たちのクラスに戻って来られるように助けて下さい。アーメン」

手術は成功に終わり、数週間後、ビクトリアは学校に戻ってくることができました。

ナタリヤはインタビューで「神様は全ての祈りを聞いてくださいますが、特に祈ることを怖がっている子どもたちの祈りに耳を傾けてくださいます」

「私たちは神様に心を開くことを怖がってはいけません。何処にいても、どんな時も祈ることはできるのです。そして神様は私達が想像も付かない形でお祈りに答えてくださるのです」と答えました。

今期の13回献金は、ナタリヤ先生のいる、ウクライナのブチャに学校の建設資金として用いられます。現在この学校はアドベンチスト大学の教室を借りて運営していますが、皆様の献金により、子どもたちが自分たちの教室を持てるようになります。ウクライナのブチャにアドベンチストスクール、そしてロシアにザオクスキー・クリスチャンスクールという私たちの2つの伝道プロジェクトへの、皆様の惜しみない献金を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- 生徒の名前については、プライバシー保護のため、仮名を使用しています。
- ストーリーの前か後で、地図を使って13回安息日献金を受け取るロシアとウクライナを見せましょう。それぞれがどのようにこの献金により助けを得られるかを簡単に説明しましょう。
- ナタリヤを [youtube](https://www.youtube.com/watch?v=bit.ly/Natalya-ESD) にて視聴できます：
[bit.ly/Natalya-ESD](https://www.youtube.com/watch?v=bit.ly/Natalya-ESD).
- 写真は [Facebook](https://www.facebook.com/bit.ly/fb-mq) からダウンロードできます：
[bit.ly/fb-mq](https://www.facebook.com/bit.ly/fb-mq)
- ユーロアジア支部の情報は、以下よりダウンロードできます：
[bit.ly/2021-ESD](https://www.bit.ly/2021-ESD).

豆知識

- ウクライナは東ヨーロッパに位置しており、大陸ではロシアに次いで2番目に大きな国です。首都キエフは国の北側にあり、ドニプロ川の中流に位置しています。
- ウクライナの認定IT技術者の数は、アメリカ、インド、ロシアに次いで世界4位です。
- ウクライナには沢山の自然保護区や動物保護区があり、特にステップと呼ばれる草原などの自然遺産を保護することに力を注いでいます。アスカニア・ノヴァが最初の野生生物保護区で、1875年に始まりました。現在では、オナガー（野生のロバの一種）やモウコノウマといった絶滅危惧種の繁殖に成功しています。
- ウクライナの国民食で、外国人に最もなじみがあるものと言えばボルシチです。主にビーツを使っているスープで、キャベツ、じゃがいも、トマト、ニンジン、たまねぎなどの野菜と煮込まれ、ニンニクとディルで味付けされる事が多いです。ウクライナのボルシチには約30もの種類があります。

Recipe

キルギス ジンジャーブレッド



【材 料】

小麦粉.....300 g
塩.....5 ml
重曹.....10 ml
〈スパイス類〉
クローブ粉末.....小さじ 1
生姜粉末.....小さじ 1
シナモン.....小さじ 1/2
モラセス（糖蜜）*.....240 ml
熱湯.....240 ml
オリーブオイル.....70 ml
てんさい糖.....50 g
卵.....1 個

* 砂糖を精製するときに出る副産物で、糖蜜や廃糖蜜とも呼ばれる。鉄分やミネラルが豊富なスーパーフード。

【作り方】

〈下準備〉

- ◇ オーブンを 190℃に予熱しておく。
- ◇ 23 cm角のケーキ型にバターを塗り、粉をふっておく。
- ① 小麦粉、塩、重曹、スパイス類をボウルに入れ、混ぜる。
- ② 別のボウルにモラセスを入れ、熱湯で溶いておく。
- ③ 別のボウルで、ショートニングと砂糖をクリーム状に混ぜ、卵を加えて更によく混ぜる。
- ④ ③のボウルに、①の粉類と②の液体を交互に少しずつ加えて混ぜる。生地はさらっとした状態になる。
- ⑤ ケーキ型に生地を流し込み、45 分焼き。竹串を刺して生地が付いてこなければ焼き上がり。
- ⑥ 5分冷ました後、ケーキ型から取り出す。
- ⑦ お好みで、生クリーム（純正バニラで香り付け、てんさい糖で甘くしたもの）を添えて盛り付ける。